

東京都事業 令和7年度 西新宿スマートシティプロジェクト
第3回 西新宿スマートシティ協議会 議事録 **【公開用】**

- 日時： ■ 2026年3月5日（木）10:00～11:00
- 開催方法： ■ オフライン・Web 併用
- 場所： ■ 東京都庁 第一本庁舎 33階 特別会議室 S5
- 出席者： 【協議会構成員】
(敬称略) ■ 一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会
■ 小田急電鉄株式会社
■ 学校法人工学院大学
■ 損害保険ジャパン株式会社
■ 大成建設株式会社
■ 東京ガス株式会社
■ 東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社
■ 独立行政法人都市再生機構
■ NTTドコモビジネス株式会社
■ 株式会社JTOWER
■ 東京電力パワーグリッド株式会社
■ ソフトバンク株式会社
■ 楽天モバイル株式会社
■ NTT東日本(株)
■ 株式会社角川アスキー総合研究所
■ 株式会社ゾルテ
■ 新宿区
■ 東京都 デジタルサービス局
■ 東京都 都市整備局
■ 東京都 産業労働局
- 議 題： 1. 開会の挨拶
2. 協議会参加者の紹介
3. 今年度の取組スケジュール
4. 令和7年度・第2回協議会の意見に対する対応方針
5. 各部会の活動成果報告
5-1.スマートサービス実装部会
5-2.広報・コミュニティ部会
5-3.データ利活用部会
6. 質疑応答および意見交換

7. 閉会の挨拶

資料： 1. 令和7年度第3回協議会資料

1. 開会の挨拶（事務局）

- 事務局よりあいさつ

2. 協議会参加者紹介（事務局）

- 協議会参加者の紹介

3. 今年度の取組スケジュール（事務局）

- 資料のとおり説明

4. 令和7年・第2回協議会の意見に対する対応

- 資料のとおり説明

5. 各部会の進捗報告

5.1 スマートサービス実装部会

- 資料のとおり説明

5.2 広報・コミュニティ部会

- 資料のとおり説明

5.3 データ利活用部会

- 資料のとおり説明

6. 質疑応答及び意見交換

—以下意見交換内容—

（発言者A）

- 西新宿での MaaS アプリはクオリティが高く、AI コンシェルジュも便利。今、世の中の一番大きな変化は AI の進化が非常に速いことだが、アプリに AI を取り込んでいるのは心強い。
- 西新宿は材料が多いエリアなので、本格的に AI を活用してリサーチしてみることが重要。他の自治体では、その都市の観光検定を実施しているところもある。西新宿でも地域検定のようなものを実施し、外の人にも興味を持ってもらい、検定結果によってインセンティブがつく仕組みづくりを行うことや、働いている人に挑戦してもらおうといった取組に挑戦する価値がある。

（発言者B）

- イベント情報を集める際、一部でAIを活用しているが、基本的には朝から晩まで電話をかけて、情報や許諾を得ている。今一番注力しているのはイベントへのタグ付けである。情報を発信し

たい側にタグ付けを依頼すると、すべてのタグを付けられてしまうため、弊社で分析してタグ付けをしている。

- また、AIを使って、個人に合わせたイベントの情報が表示できないか考えている。まだコンシェルジュ機能には至っていないが、観光客向けの情報をもとにAIを使って行動をサポートすることも目指していきたい。
- 防災情報の収集は他都市でも苦戦している。避難所の場所は行政で取りまとめられているが、民間の一時避難場所の情報や、リアルタイムでの情報を共有することが難しい。民間サービスと、既存の行政の仕組みとが連携ができるとありがたい。
- 民間事業者が防災情報を集約するのではなく、防災サービスと連携することで、民間事業者のサービスでも防災情報を見られるようにすることが重要だと考えている。

(発言者C)

- スマートエネルギーについて、今回は2つのビルから非常に丁寧にデータを提供していただいた。約11万ものデータを集められたが、大学生の力を借りながらデータを整理した。今回の取組にAIは使っていないが、AIを使っているサービスはある。例えば、熱源や発電機の制御などで、熱源や発電機をどのように動かせばCO2排出が抑えられるのか、最も経済的なのか、ということを手動的に最適化できるようになっている。ただ、省エネを実現するためには、需要家側との連携を図っていかねばならないと考えている。

(発言者D)

- 例年12月に開催していたイベントを今年度は11月に前倒し、結果として非常に多くの参加者にお越しいただいた。やり方によってはまだまだポテンシャルがあると感じ、来年度は引き続き開催する。
- また、コロナ前まで開催していた屋外のイベントを今年の6月頃に復活し、夏のイベントの一つにできないか検討している。
- さらに来年度は、既存施設を方針転換し、デジタル技術を活用した情報発信拠点のような施設に刷新することを考えている。当面はトライアルでの運営になるが、新宿エリア全体の将来像について情報を発信できる、一般のお客様にも開かれた空間にしたいと考えている。
- 西新宿の取組やイベントの情報発信をできると非常に有益と考えるため、引き続き情報連携をさせていただきたい。

(発言者E)

- 4号街路のデザイン調整会議の議論にデジタルツールを使ったが、非常に有用な話があった。一方、こういう技術に誰もが馴れていないため、何ができて何ができないのか、という積み重ねが必要だと感じた。関係者だけでなく、広く色々な方に見

ていただき、特定のメンバーだけで決められがちな都市計画のプロセスに、色々な人の意見をオンタイムで聞きながら進めていくという時代になっていくとよいと考えている。

- プロジェクションマッピングを中心としたナイトタイムエコノミーにも関わる中で、デジタルという技術で組織を横つなぎにできると良い。2030年に向けて西新宿が変わっていくが、都庁街区も再整備が始まる。11号街路下がラポストリートになるということで、色々な交流や発信、挑戦の場になる。
- こういった拠点を作りつつ、駅前にも施設があり、イベント情報サービスがあると、面的に動くことができる。まちが変わっていくこの4、5年で観光等色々なテーマでデジタルを使えると良い。西新宿にかかわる組織をデジタルで横つなぎにしていくチャレンジは必ず成果が出ると思う。
- 防災についてはいろいろな情報が出ている。3月で東日本大震災から15年だが、スマートシティ協議会というからには、災害時にデジタルが活かされていることは重要だと思う。体制やオペレーションの問題もあるが、協議会からの発議で、西新宿全体で1万人規模の防災訓練を、外国人も含めて実施することで、「東京の災害対応はすごい」ということを示すことができると良いのではないか。

(発言者F)

- 過去の経験や周りの取組を見ていると、まちづくりにAIを入れていくことは当然の流れと考えている。新宿には駅周辺、4号街路、都庁周辺と、開発を検討する協議会が多数あるが、時代の変化を踏まえ、AIや新しいDXを活用する協議会にしていかなければいけない。その先端を行くのがこの協議会ではないか。
- 西新宿エリアはそれを受け止められるだけのポテンシャルがあり、対象者も対象者も多岐にわたる。同じように西新宿の開発にかかわっている人たちと連携して、お互いの得意分野を掛け合わせながら、広く西新宿エリアを捉えなければいけない。
- 防災情報のリアルタイム情報は皆欲しがっている。他自治体と防災分野で関わっていた時、地元の方はプラットフォームがあれば情報を載せる準備はある、という話を聞いたことがある。
- スマートエネルギーに関しては、ビルのエネルギー管理システムを入れるという議論がこの界限でもできるはずである。許諾が大変かもしれないが、データを受領していくことは必要。また、受領したデータを整備し、AI学習の材料にすることが、この地域ならばできるのではないか。建築関係の事業者や部署と連携し、協力していきたい。

(発言者G)

- 地域冷暖房センターなど、見えないところで我々の快適な生活を支える設備があることを実感した。色々な取組でまちが良くなっていく、地域の課題を見ながら改善をしようとしている。時間

はかかっても良くなっていけば良いと思う。

7. 閉会の挨拶（事務局）

■ 閉会の挨拶

（一般社団法人新宿副都心エリア環境改善委員会）

- 思い返すと2020年から協議会が始まり、もともとのコンセプトはつながる西新宿だった。このように皆さんとディスカッション、実績の共有ができると本当につながっている感が出てくる。同時に、今日議論にあった人力の話のように、アナログで顔を合わせることが重要で、それにデジタルを組み合わせると皆さんとより一層繋がることできる。
- 次回6月の協議会に向けバージョンアップしながらアクションを皆さんと共有していくことができればありがたい。いつも大変中身の濃いディスカッションができるのは事務局のおかげと思っている。引き続き連携しながら西新宿を良くしていきたい。

以上